

言葉の水彩画

菅野国春 著



言葉の水彩画

菅野国春著

三交社 逝水選書 2



言葉の水彩画

昭和四十七年四月二十日 初版

定価五六〇円

著者 菅野 国春
装丁 高尾 早苗

発行者 横田 明彦
発行所 逝水書林

発売元 国家試験の 三 交社
東京都千代田区神田神保町二ノ二〇

印刷 荘司印刷所
製本 イマキ製本所

著者との協定により検印省略

言葉の水彩画





カット・装丁 高尾早苗

まえがき

まず、これが詩集でないことを断っておきたいと思います。本書の表題のとおり、言葉で描いた、淡い水彩画の世界です。

二十代の前半まで私は詩を書いておりましたが、その後私は自ら詩人であることを放棄致しました。その間の経緯については、巻末に簡単にふれておきました。ここに収録された作品は昭和四十年から三年間、日産自動車発行のPR誌「くるまの手帳」に連載されたもので、他の作品は一切収録されておりません。

詩集というようなものは、本来、自費出版すべきものであるという偏見を私は持っておりますので、私はこれらの作品が若い日に書いた詩であつたら、おそらく生涯、このような書を持つ機会がなかったと思います。詩人落伍者であるというふてくされが、結果的に「ことば」に関する書籍を残すことになったという皮肉に対し、多少のとまどいがないで

もありません。この書を手に取ってくれる人に多少でも役立つものがあるとすれば、ことばそのものが持っているムードを理解してもらおうということかもしれません。〃ことば〃が年々実用化していく生活の中で、このような言葉のプレイは、大へん贅沢なことのひとつだと思います。四十年、四十一年、四十二年、世相は決して明るくありませんでした。そういった世相の反映は、PR誌であるという条件、詩ではないという姿勢のためにまったく無視されました。自分で美しいという言い方を許してもらえらなら、この書は「美しいタワゴト」集です。食い足りない読者がいて当然で、お許しただくほかありません。このようなタワゴトを貴重な紙面を割いて三年間も連載してくれた日産自動車「くるまの手帳」の編集長、阿部幸夫氏他スタッフ一同には心から感謝の意を表したいと思います。また、三交社編集長横田明彦氏の熱心なすすめによらなければ、おそらく陽の目をみなかったはかない言の葉群も、紙面の中できつと喜んでいるにちがいありません。みなさんありがとうございます。

昭和四十七年三月二十九日

菅野国春

目

次

言葉の水彩画	19
--------	----

【春】	21
-----	----

紫陽花	23
-----	----

ある長い長い一日	24
----------	----

少女へ	26
-----	----

三月	28
----	----

小さな早春	31
-------	----

海とコップ	32
-------	----

それだけのシャンソン	34
------------	----

麦秋のオブリガード	35
-----------	----

エイプリル・フール	36
-----------	----

復活祭	38
-----	----

黄水仙の記憶……………40

花影……………43

春灯……………44

四月馬鹿……………45

椿……………47

チューリップ……………48

オノマトペエ……………50

蝶の町……………51

緑の耳飾り……………52

五月の空……………54

おたまじゃくし……………56

惜春……………58

五月の恋……………59

パラソル……………60

S P E E D ・ R A C E

こい

五月

【夏】

初夏

桜桃忘

ながし

無垢

東京

六月

幸福

植物

哀愁

62

63

64

67

69

70

71

72

73

75

76

77

79

六月の高原	80
その朝から	82
炎天の ennui	84
雲と峰	85
氷柱	86
Symphony "Natsu"	87
夏の日	88
苺ミルク	91
螢	92
クリーム色の夏	93
七月	94
花栗	97
草矢	98
ヨット	100

七月のイマージュ……………	102
晩夏の儀式……………	103
八月十五日……………	105
浜辺の恋唄……………	106
八月だ……………	108
夕焼け……………	111
海に近い街でのこと……………	112
星のブルース……………	114
盆踊……………	115
白い服……………	116
晩夏……………	117
夏痩せのプロセス……………	118
香水……………	119
不貞の美……………	122

水着	121
花水	122

【秋】	125
-----	-----

初秋の裸身	127
九月のオブリガード	128
夏の悔恨	130
赤とんぼ	133
新涼	134
短い短い小説	135
抒情のエチュード	136
初秋なのに	138
初秋の少女	139
初秋のコンテ	141

グッドバイ・サマー……………	142
流星のメルヘン……………	143
帰燕……………	144
野菊……………	146
十月の嵐……………	147
霧……………	148
小さな十月……………	150
これがほんとの恋の唄……………	152
それから……………	154
流浪のカルテ……………	156
虫しぐれ……………	158
NOVEMBER SONG……………	159
時雨……………	160
残菊……………	161